

## 2023年度 東洋大学 IR ニュースレター Vol.3

### 東洋大学の教育 — 全国調査との比較 —

分析担当：IR室 教授 劉文君



東洋大学  
学長・IR室長 矢口悦子

全国学生調査の結果と東洋大学における結果を重ねてみると、ほとんどの項目で同じ傾向が見てとれます。このことは本学の学生たちは全国の平均的な私立大学生と同じような行動をし、学び、学生生活を送っている、したがって本学での学生教育は全国における大学生へのアプローチの典型ともなりうる、というような解釈ができるようです。同時に、大学の施設を利用した自主的な学習や異文化圏の学生との交流、海外留学・研修などの経験において、本学での体験が全国平均を上回るという結果が見られます。これは本学の強みとしてさらに充実を図りたいと思います。併せて忘れてはならないのが、教員に質問・相談する時間やキャリアに関するカウンセリングなどの対応において、やや低い数値になっていることです。一人ひとりの学生たちと向き合い、個性豊かな学びを丁寧に支えていくことにこれまで以上に力を入れてまいりたいと考えております。

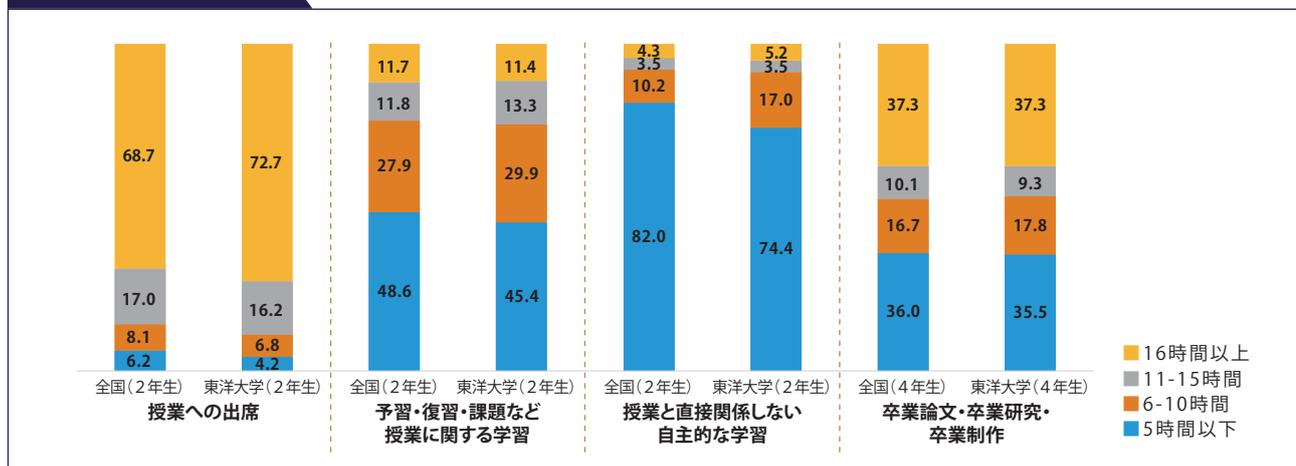
#### はじめに

文部科学省・国立教育政策研究所は2022年末から23年初めにかけて全国の四年制大学の学生に対してアンケート調査を行った。全国で532大学が参加し、95万人の学生が回答したこの調査には東洋大学も参加している(コラム「全国大学生調査とは」参照)。その結果から、全国の大学と比較した東洋大学の特徴をまとめた。

# 1. 学習時間

設問「今年度後期の授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間は、それぞれのどのくらいですか」について、東洋大学と「全国」との回答結果を比較すると(図1)、2年生で、「授業への出席」を<16時間以上>とした割合が全国の68.7%に対して、東洋大学は72.7%。「授業に関する学習」が<5時間以下>は、全国の48.6%に対して東洋大学は45.4%。「授業と直接関係しない学習」が<5時間以下>は、全国の82.0%に対して東洋大学は74.4%である。「授業に関する学習」「授業と直接関係しない自主的な学習」の時間が「過少」である割合が全国より低い。しかし、その絶対値は決して低くないことが無視できない。4年生で、「卒業論文等」は16時間以上が、東洋大学は全国と同じく37.3%である。

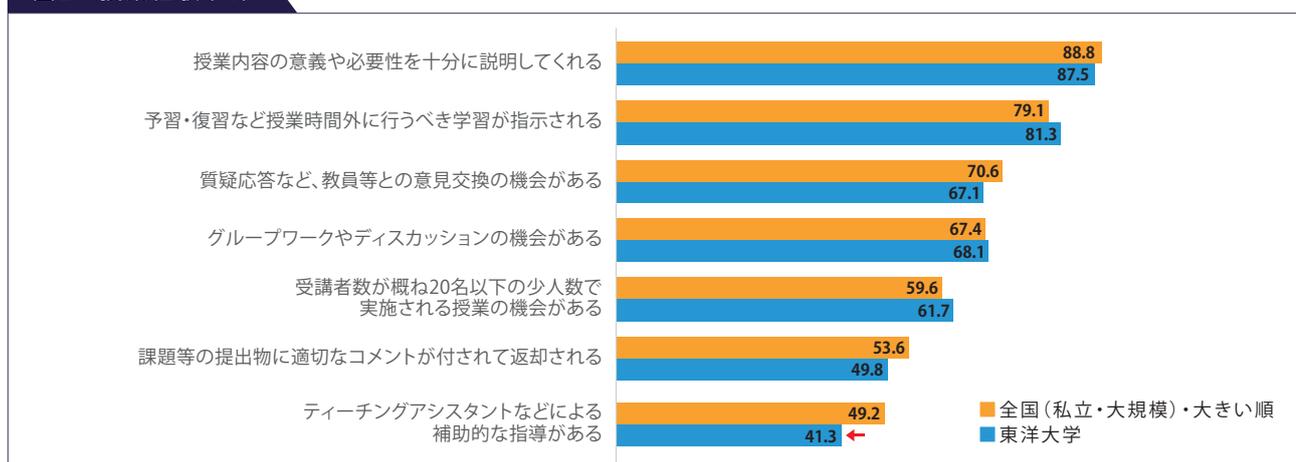
図1 学習時間 (%)



# 2. 授業経験

図2は、設問「大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか」に対して、<よくあった>または<ある程度あった>と回答した割合を全国と東洋大学で比較している。なお、ここで「全国」は、私立大規模のみ(n=17,752)である。全体として、東洋大学・全国の双方において肯定的回答の割合が高い項目は「授業内容の意義や必要性の説明」「授業時間外に行うべき学習の指示」である。これに対して比較的低い項目は「ティーチングアシスタントなどによる補助」である。東洋大学と全国とほぼ同じ傾向が見られる。また多くの項目で、東洋大学と全国とほぼ差がないが、「ティーチングアシスタントなどによる補助」では全国の49.2%に対して、東洋大学は41.3%である。この設問への回答を学部分野別で全国と比較してみると、人文・社会では全国より低く、理学・工学、家政で全国よりわずかながら高い(データ省略)。

図2 授業経験 (%)

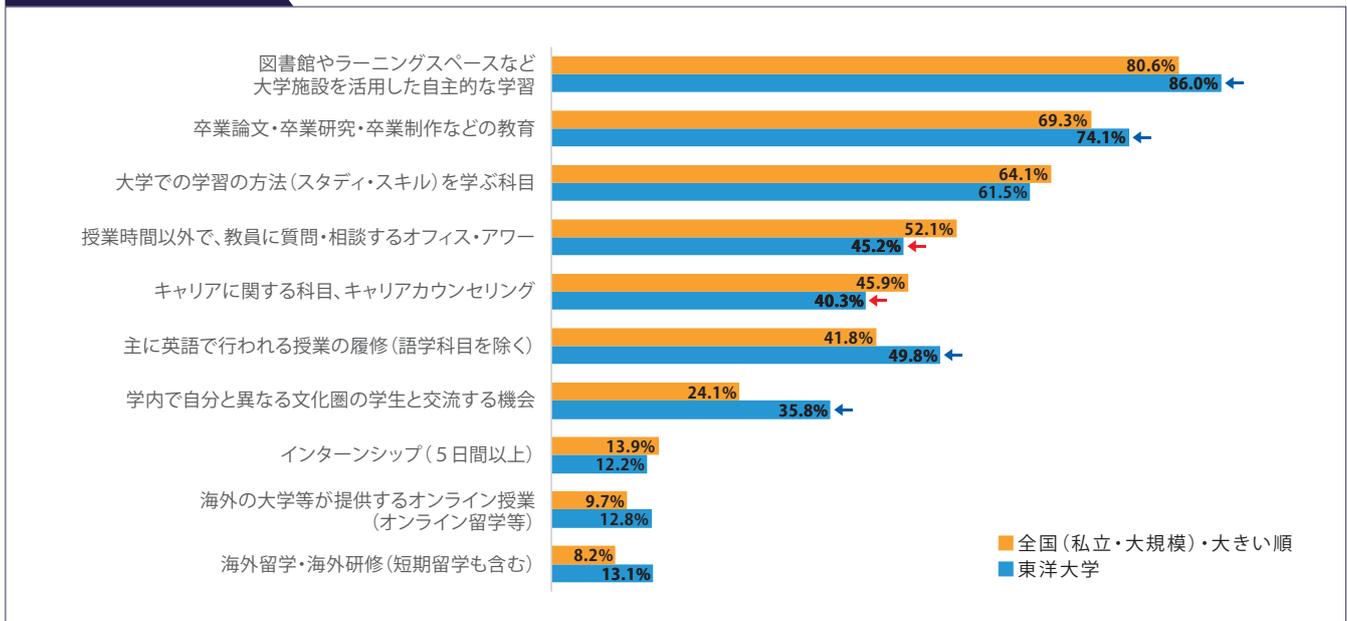


# 3. 学修経験

設問「大学在学中に次のような経験はありましたか。また、その経験は有用でしたか」に対して、<有用だった>または<ある程度有用だった>と回答した割合を全国(私立・大規模)と比較してみる(図3)。全体として、東洋大学は全国と同じく、「図書館等を活用した自主学習」「卒業論文・卒業研究・卒業制作などの教育」などでの割合が高い。一方でコロナ禍の影響により「インターンシップ(5日間以上)」「海外留学・海外研修」等での割合が低い傾向が見られる。

各項目で比較してみると、「図書館等を活用した自主学習」「卒業論文・卒業研究・卒業制作などの教育」、および国際教育・交流の「主に英語で行われる授業の履修」「学内で自分と異なる文化圏の学生と交流する機会」で、東洋大学は全国より割合が高い。しかし、東洋大学は「授業時間以外で、教員に質問・相談するオフィス・アワー」「キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング」での割合が全国より低い。この2項目を学部分野別で全国と比較してみると、東洋大学は人文・社会での割合が低く、理学・工学、家政などで全国と同程度もしくはわずかに高い(データ省略)。

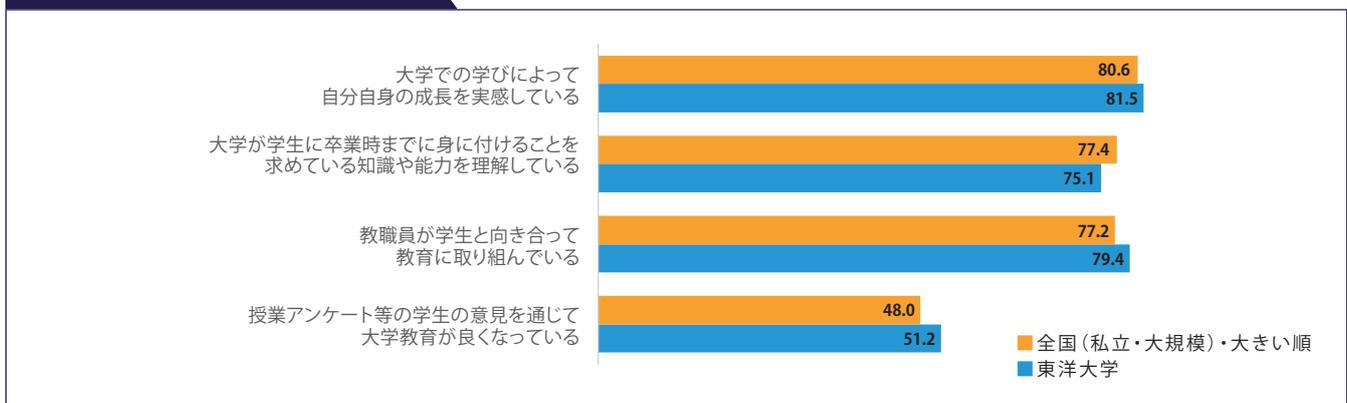
図3 学修経験 (%)



## 4. 学修の振り返り

図4は、設問「これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか」に対して、東洋大学と全国(私立・大規模)の各項目で、それぞれ「<そう思う>または<ある程度そう思う>と回答した割合を示している。「大学での学びによって自分自身の成長を実感している」「大学が学生に卒業時まで身に付けることを求めている知識や能力を理解している」については、全国とほとんど変わらない。しかし「教員が学生と向き合って教育の改善に取り組んでいる」および「授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている」では東洋大学の回答はわずかながら全国よりは高い。大学の改善への意欲が、アンケート調査などを繰り返すことによって、少しずつ学生に伝わっていることが示唆される。

図4 大学での学び全体への評価 (%)

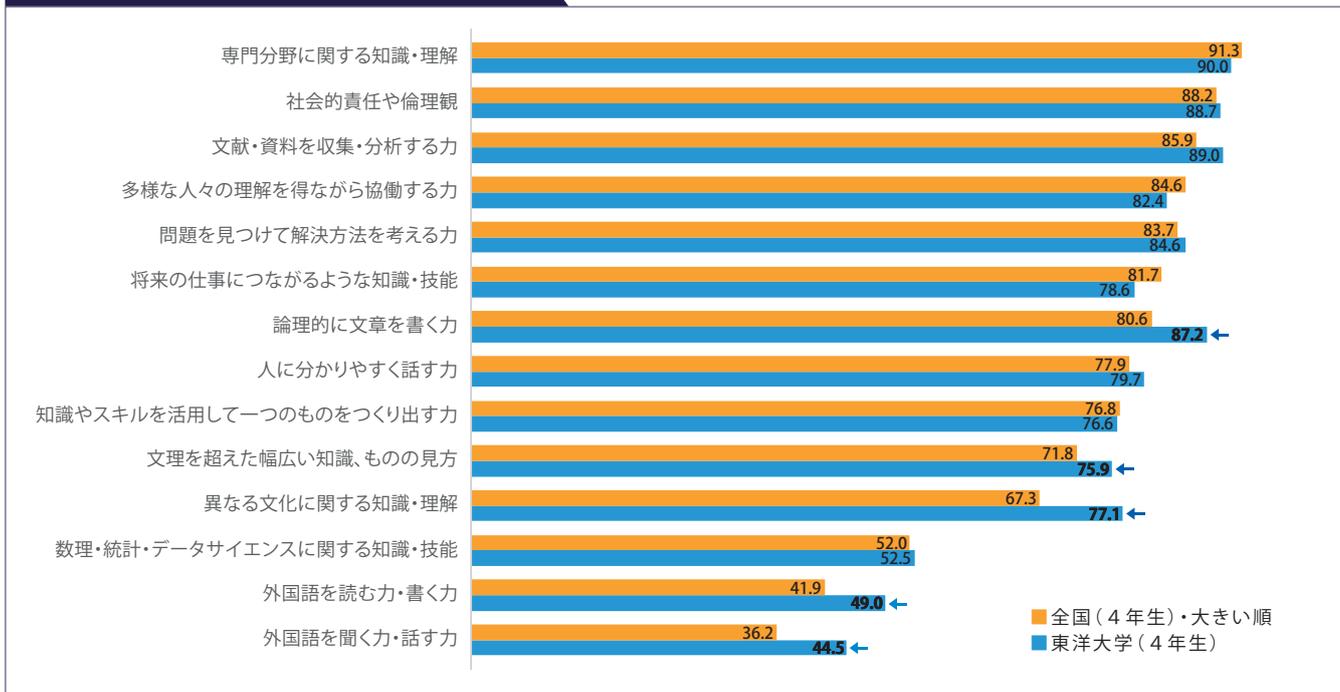


## 5. 身に付いた能力の自己評価

図5は、設問「大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか」に対して、東洋大学と全国の4年生が、各項目にそれぞれ「身に付いた」または「ある程度身に付いた」と回答した割合を示している。全体として、全国と東洋大学は「専門分野に関する知識・理解」「社会的責任や倫理観」などの項目での割合が高く、「外国語を聞く力・話す力」などの項目で比較的低い、と同じ傾向が見られる。

個々の項目で比較すると、「論理的に文章を書く力」「文理を超えた幅広い知識」、および国際関係の「異なる文化に関する知識・理解」「外国語を読む力・書く力」「外国語を聞く力・話す力」など多数の項目で、東洋大学は全国より割合が高い。

図5 身に付いた知識や能力(自己評価)(%)



### まとめ

以上の各項目を通じて、東洋大学の教育は、全国と比べて、大きく異なるものではないことが読み取れる。ただし、それは改革の余地がないことを示すものではなく、他大学と同様に様ざまな課題を抱えていることが示されている。授業外での学習時間の低さは、日本の大学の根本的な問題点として指摘されてきたことであるが、それがそのまま東洋大学においても解決されていない問題であることが今回の調査によって示されたと言えよう。東洋大学が自らのアイデンティティを示すためには、こうした基本的な問題を解決しなければならないことを改めて感じられる。

他方で、東洋大学の教育には他大学と比べて、特徴があることも明らかとなっている。特に外国語を使う授業、国際経験、留学生との接触などの点で、国際化において明確な成果を示しつつある。これは前回の全国学生調査と東洋大学の調査結果との比較でも見られたことであり、この方向での改革が定着しつつあることを示すものとも言える。ただし、その特徴はまだ絶対値としてはわずかであり、それをさらに進めていくことが課題であることは言うまでもない。

また学修経験、身に付いた知識や能力(自己評価)などについてはいくつかの点で全国と比べて優れていると思われる点があるとともに、留意すべき点もいくつかあった。これらの点についてはさらに分析を進めることが必要である。それと同時に、大学全体での分析から、学部別の分析へ掘り下げることが不可欠である。そのためにIR室と各学部との協力体制をどうつくるかがこれからの課題となる。

文中に述べたように、「授業アンケート等の学生の意見を通じて大学の教育が良くなっている」という項目は、東洋大学の半数の学生が同意している。また、この数値はわずかながら「全国」より高いことに注目したい。こうした調査とその分析をさらに進め、それを教育改革につなげていくことが求められている。

#### コラム「全国大学生調査」とは

文部科学省・国立教育政策研究所が全国の大学生を対象として行った試行調査で、これまで3回行われている。第3回調査は2022年末から23年初めに行われた。全国の約68%の大学にあたる532大学が参加し、約95万人が回答し、これに東洋大学も参加している。

東洋大学の調査対象者数は15,118人、回答者数は1,249人、回答率8.3%(全国10.6%、私立大学9.7%)、第1部回答者数は1,144人である。なお全国の回答者と比べ、東洋大学のサンプルは人文、特に社会のウエイトが高く、理学・工学、家政はほぼ同じである。

		全国		本学	
		実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)
人文	文学部	9,115	12.2	196	17.1
社会	経済学部・経営学部・法学部・社会学部・国際学部・国際観光学部・国際地域学部	14,708	19.8	475	41.5
理学・工学	理工学部	13,224	17.8	222	19.4
家政	食環境科学部	2,958	4	47	4.1
その他	ライフデザイン学部・総合情報学部・情報連携学部	34,460	46.3	204	17.8
計		74,465	100	1,144	100.0
学年構成	2年生	51,502	53.0	542	47.4
	4年生以上	46,955	44.8	602	52.6
	6年生以上	2,615	2.2		
計		101,072	100	1,144	100.0

※「全国学生調査(第3回試行実施)」の結果分析—全国・私立大規模大学との比較(2023年度第3回 IR室運営委員会報告資料 2023年10月18日)はガールーン/ファイル管理/IR室関連で学内へ公表しています。適宜ご参照ください。